

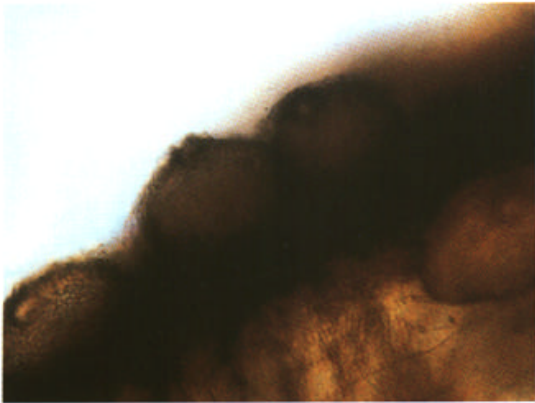
〈レタス株枯病〉



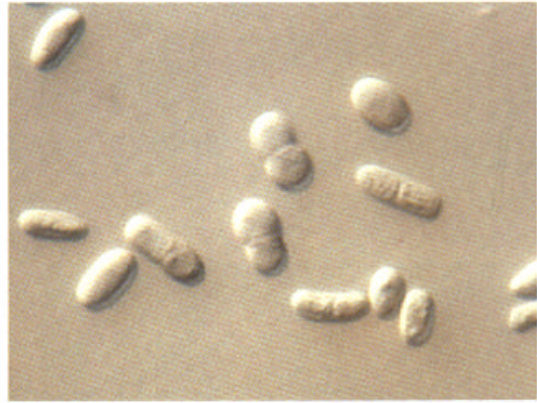
圃場での萎凋症状。



地際部から葉と根に進展する水浸状の病斑。



病斑上に生じた病原菌の柄子殻。



病原菌の柄胞子。

〈レタス株枯病〉

病原菌：Phoma exigua Desmazieres

1. 症 状

はじめ地面と接する下葉の葉柄基部や葉緑部に暗緑色水浸状、不整形の病斑を生じ、拡大して暗褐色から黒色の大型病斑となり萎凋し、葉枯れを生じる。上位葉や根部にも進展し、株全体が萎凋、黒変枯死する。病斑部には暗色の小粒（柄子殻）が観察される。

2. 生 態

本病は主に施設及び露地トンネル栽培で発生する。春期に被害が多く、高温時での発生は未確認である。施設やトンネル内が過湿になると多発し、また急速に病勢が進行する。罹患部には容易に柄子殻が形成され、頂部から大量の柄胞子が放出される。本病菌は、土壌生息性で、レタスにおける伝染は土壌伝染と考えられるが、アジサイ、アサガオ、ユキノシタ及びモンステラでは葉の病斑性病害の病原菌として知られている。

3. 防 除

1) 発生の認められた圃場での作付けを避ける。 2) 過湿にならぬよう換気、灌水を適切に行う。 3) 被害株は速やかに除去する。

4. 記 事

本病は1996年4月、南多摩の露地トンネル栽培で発生した。